

身延山久遠寺宝物館

身延山久遠寺は、鎌倉時代末期（1185-1333）にまで遡る 700 年以上の豊かな歴史を持つ寺院です。大正 15 年（1926 年）には、数百年前の絵画や経典、遺品などを収蔵する宝物館が建てられました。1985 年（昭和 60 年）には、日蓮聖人 700 年記念事業の一環として、本堂地下に身延山久遠寺宝物館を建設し、旧宝物館から現宝物館に移築しました。

収蔵品は約 5,000 点で、他機関からの借用には厳格な規則と許可が必要です。1973 年（昭和 48 年）には、文化庁、県教育委員会、身延山短期大学との連携により、身延文庫絵画図書館が目録を作成しました。

展示されている代表的な絵画には、1281 年に完成した「曼荼羅本尊」や 1282 年の日蓮聖人の肖像画である「波木井の御影」などがあります。また、住吉如慶（1599～1670）の日蓮聖人の肖像画なども有名です。また、中国の画家の絵画や、徳川家康を中心とした書の原画なども展示されています。これらの貴重な絵画、経典、工芸品などを展示し、年間約 6 万人の来館者を集めています。

また、入館料を払えば、日蓮宗のお経の線をなぞることで、日本の伝統的な書道を体験することができます。英語の説明は不要で、淡い墨で書かれた漢字を筆でなぞるだけ。日本語が初めての方でも参加できます。

館内は写真撮影禁止ですのでご注意ください。